

化学療法計画書・治療レジメン

治療法コード 1-25 治療法名 3wHER+XELOX(胃癌)

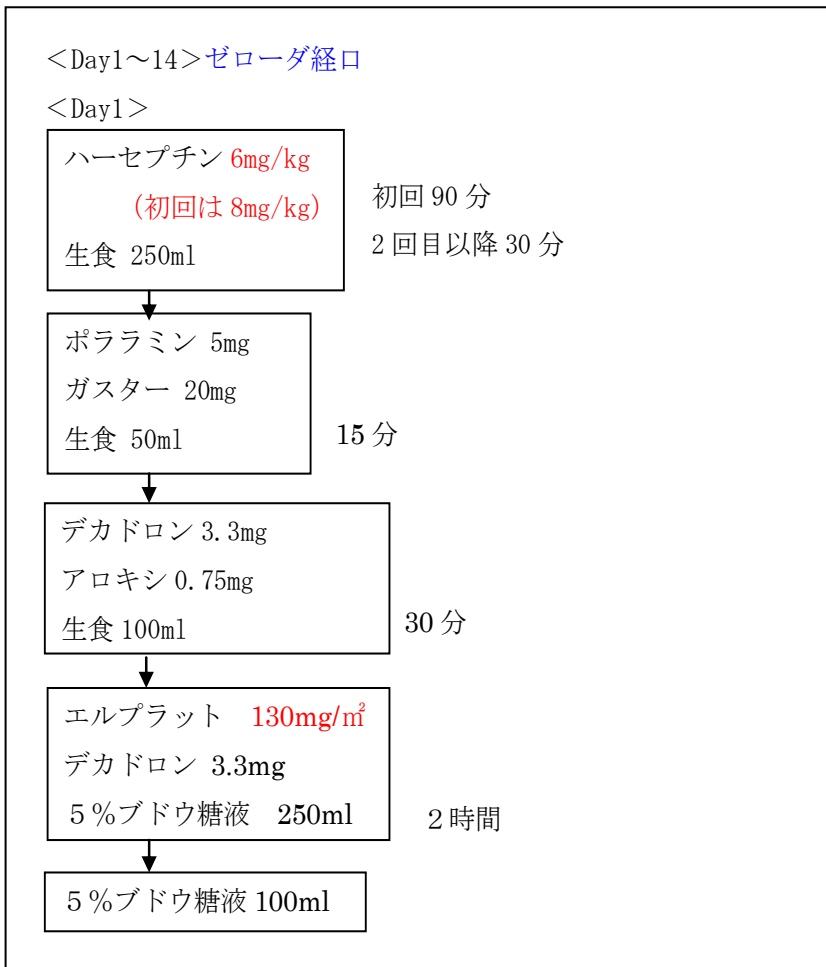
投与スケジュール

治療内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
薬品名	投与量																								
ゼローダ *	2000mg/m ² /day	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓										
ハーセプチン	6mg/kg	↓																							
	(初回は8mg/kg)	↓																							
ガスター/ポララミン	20mg/5mg	↓																							
デカドロン	6.6mg	↓																							
アロキシ	0.75mg	↓																							
エルプラット	130mg/m ²	↓																							

*ゼローダ 1日2回経口投与 1日目夕から15日目朝まで投与

投与期間 3週間毎に繰り返す

投与詳細図



治療レジメン・チェックリスト

治療法名 3wHER+XELOX(胃癌)

投与時・投与期間中の注意事項

- 血管外漏出→エルプラット:炎症性、ハーセプチン:非炎症性
- 手、足や口唇周囲部等の感覚異常又は知覚不全(末梢神経症状)が、本剤の投与直後からほとんど全例にあらわれる。また、咽頭喉頭の絞扼感(咽頭喉頭感覚異常)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な処置を行うこと。
- 重篤な骨髄抑制、劇症肝炎、急性腎不全が起こる可能性があるため、定期的に臨床検査を実施
- 気管支痙攣、呼吸困難、血圧低下等の重篤な過敏症状があらわれることがあり、重篤な過敏症状は本剤を複数回投与した後に発現する場合や、本剤の投与から数時間後に発現する場合があるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には直ちに中止し適切な処置を行うこと。
- 感染、出血傾向に十分注意
- 悪心・嘔吐、食欲不振等の消化器症状がほとんど全例におこるので、患者の状態を十分に観察し、適切に処置を行うこと。
- ワーファリンと併用する場合には血液凝固能検査を定期的実施
- ゼローダをS1投与中止後に用いる場合は、7日以上の間隔を空けること
- 生殖可能な年齢の患者に投与する必要がある場合には、性腺に対する影響を考慮すること。
- ハーセプチン投与開始前心機能を確認
- 適宜心機能検査(心エコー等)を行い十分観察。特にアントラサイクリン系薬剤投与中または治療歴がある場合、胸部へ放射線照射中、心不全症状、冠動脈疾患、高血圧症またはその既往歴のある患者には頻回に実施
- ハーセプチン投与予定より1週間以内の遅れで投与する際は、6mg/kgを投与。投与予定日より1週間を超えた後に投与する際は、改めて初回投与量の8mg/kgで投与
- 安静時呼吸困難またはその既往歴のある患者は十分に観察しながら慎重に投与する

主な副作用とその対策

- 骨髄抑制
 - 好中球 $1000/\mu\text{L}$ 未満+発熱、あるいは好中球 $500/\mu\text{L}$ 未満→G-CSF投与、抗菌薬投与
- 悪心・嘔吐・食欲不振→デカドロン、D2拮抗薬(プリンペラン等)追加。催吐性リスク:中度
- 末梢神経障害→リリカ、サインバルタ等投与。
患者に対しては、これらの末梢神経症状、咽頭喉頭感覚異常は、特に低温又は冷たいものへの曝露により誘発又は悪化すること、多くは本剤の投与毎にあらわれるが休薬により回復する機会が多いことを十分に説明するとともに、冷たい飲み物や氷の使用を避け、低温時には皮膚を露出しないよう指導すること。
- アレルギー→Grade1,2:ソル・コーテフ投与。次回デカドロンを16.5mgに増量。エルプラットの投与時間を4時間に延長。 \geq Grade3:ソル・コーテフ投与。急速輸液静注により循環血液量を確保し、アドレナリンを投与。エルプラット投与中止

- infusion reactionに対し、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には適切な処置を行うと共に症状が回復するまで患者の状態を十分観察。重篤な副作用が認められた場合には直ちに投与を中止→軽度～中等度：発熱・悪寒に対しカロナール400mg、重篤：酸素吸入、アドレナリン、ソル・コーテフ投与
- 血管痛→穿刺側腕の加温。溶解液の増量。輸液パックの加温(40℃)
- 手足症候群→予防的に保湿剤(ヒルドイド)投与
- 下痢→水分補給、早期性→抗コリン薬、遅発性→ロペミン、タンナルビン投与
- 口内炎→口腔ケア、口腔粘膜炎の予防→アロプリノール含嗽液、治療→アズノールうがい液、予防・治療→プロマック含嗽・内服液、疼痛→アズレン・リドカイン含嗽液

- 色素沈着
- 発疹
- 流涙
- 肝機能異常
- 全身倦怠感